

粕谷和夫の観察日記より。1月21日、甲府盆地で鳥見をしているとノスリ3羽、トビ6羽のワシタカが雪をかぶった八ヶ岳連峰をバックに雄姿を見せてくれました。ノスリ3羽の内の1羽は白色型で、とても綺麗でした。

紅葉台



新聞

第226号

2026年
3月21日

発行人：関谷 孝

地域と若い人を結ぶ 餅つき・どんど焼き

1月11日晴天で温かく、強風も一時休んで、絶好の餅つき日。毎年のことながら、紅葉台自治会では高齢者が多く、行事を運営するのも一苦労しています。そんな中力強い味方になったのは、助っ人に来た若い人たち。今年は、これまでになく若者と地域を結ぶことの良さを実感しました。



お正月に餅をつくのは日本の伝統行事です。しかし、最近は、高齢者がふえ、餅のつき手がいなくなっていました。どこの自治会でも同じ悩みがあるのではないのでしょうか。そんな時に頼りになるのは若い人のパワーです。隣接の拓殖大学の学生が10名ほど駆けつけてきました。

文化祭実行委員をしているという意欲的な人たち。就職が決まった4年生を中心に3年2年生の男女です。千葉や埼玉または遠く北海道から高尾に下宿している人など様々でした。話してみると明るく元気で気持ちよく仕事を引き受けてくれました。女子はジュースやサイダーお酒など配ってくれたりごみの分別などしたりして



いました。男子は餅つきをしたりや道具を洗ったり片付けをしたりしていました。話すとも元気で楽しいメンバーでした。進んでなんでも気持ちよくやってくれていて本当に助かりました。

また、昨年より新たに誕生した「青雲（あおくも）」という名前の浅川小・中学校の仲間4人組。自分たちが地域貢献できることをしようと集まった30代の若者です。内野さんが中心で以前紅葉台に住んでいたとのこと。これからは地域のいろんなイベントに積極的に参加して地域おこしをしていきたいと意欲満々でした。餅つきや豚汁の担当など進んでやっていました。後片付けも重たいテーブルや道具がありますが若い人たちのお陰でさばきと進みました。

毎年来ている『にほんごの会』の若者15名。毎週日曜日に東浅川保健福祉センターで日本語を学んでいる海外から来た技能実習生です。主にベトナムやフィリピン、など東南アジアから日本の産業を支えています。朝早くから夜遅くまで働き、疲れていても日曜日には真面目に日本語を学んで資格を取り、仕事に役立っています。働いた給料は本国の家族に送金するなど家族を支えています。本当に生きる力に逞しく、家族思いの姿にこ



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

ちらも学ぶことが多いです。今回は日本の行事を体験することが出来てよかったと言っていました。餅つきも挑戦し、道具類を冷たい水できれいに洗ってくれました。働き者です。



日本の文化を知ることは、民間外交になります。彼らがこれから自分の国に帰って日本のことを思い出すこともあるでしょう。人と人がつながってこそ国際理解になりますし、友好関係は将来のより良い関係に繋がっていきます。初めて食べるお餅や豚汁、甘酒、どんど焼も体験をして「美味しかった」「来てよかった」と感想を言っていました。

もちろん準備から片付けまで気配りなどご苦労があった実行委員の皆様、餅つきの道具一切を貸して下さったみころも幼稚園園長の曾木さん、餅をこねてふるまい餅を作ってく下さった子ども会の皆さん、ふるまい餅を配っていた子どもたち。シニアクラブの皆さんは交通安全のため寒い中歩道に立ってしてくれました。前日から準備していた実行委員の皆さん、もち米を釜でふかしていたテニス同好会の皆さん、炭で真っ黒になったお釜や道具をきれいに洗っていた方等たくさんの方々が集まってこそ出来た行事です。紅葉台が数少ない餅つきを継続できるのも「子どもたちに経験してほしい」と願う人たちの思いがあるからだと思います。



今回は特に若い人と地域の人たちが協力して取り組んだことがこれからのモデルケースになるのではと思いました。若い人たちが地域の人たちと繋がって新たな活力をもたらしてくれてとても頼もしかったです!!

お互いにとってウィンウィンですね。これからも持続可能な行事になってほしいと願っています。皆さんの地域での新たなヒントになれば幸いです。

粕谷和夫の観察日記



1月21日、甲府駅から身延線に乗換えて、市川大門駅下車、富士川に鳥見に行きました。河原の水辺にはクサシギ(写真一番奥のクチバシが少し長い鳥)とイカルチドリ2羽(写真手前)が採餌して

いました。カモもいっぱい群れていましたが、遠くで写真は撮れませんでした。